



BOM Report オプション Ver.8.0

レポート出力仕様

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関しての責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

商標

本ユーザズマニュアルに記載されている「BOM」はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。また、本文中の社名、製品名、サービス名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

なお、本文および図表中では、「TM」（Trademark）、「(R)」（Registered Trademark）は明記しておりません。

目次

本書について

製品表記

使用方法

新機能・仕様変更・機能改善

1. Report オプション 7.0 SR4 → Report オプション 8.0

(1) 全般

(2) Windows向けレポート

(3) Linux向けレポート

(4) VMware向けレポート

2. Report オプション 8.0 での変更

(1) 不具合修正

(2) Windows向けレポート

(3) Linux向けレポート

(4) MHTML形式のレポートについて

注意・制限事項

1. 全般

2. Windows向けレポート

3. Linux向けレポート

4. VMware向けレポート

各レポートデザインの注意・制限事項

1. 全インスタンス概要（VMware以外）

2. Windows向けレポート

3. Linux向けレポート

4. VMware向けレポート

レポートデザインフォルダー構成

出力ファイルサイズの目安

本書について

製品表記

正式名称	略称
BOM for Windows	BOM
BOM Report オプション	Report オプション

※ 略称の末尾には、バージョン番号（8.0や7.0 SR4など）が付加される場合があります。

使用方法

本書には、BOM for Windows Ver.8.0 SR2のオプション製品である「BOM Report オプション Ver.8.0 SR2」のレポート出力に関する仕様を記載しています。

- BOM 8.0 SR2、Report オプション 8.0 SR2のインストールや使用方法に関しては、'BOM for Windows Ver.8.0 インストールマニュアル'および'BOM for Windows Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'、'BOM Report オプション Ver.8.0 ユーザーズマニュアル'を参照してください。
- 本書の使用に際しては、BOM 8.0 SR2およびReport オプション 8.0 SR2についての基本的な知識を前提とします。

新機能・仕様変更・機能改善

1. Report オプション 7.0 SR4 → Report オプション 8.0

(1) 全般

- Microsoft .NET Framework Ver.4.6.2以降に対応し、従来必要としていたMicrosoft .NET Frameworkの追加インストール作業が不要[※]になりました。またこれに伴って"Microsoft Chart Controls"のインストールもReport オプション 8.0では不要となりました。

※ BOM 8.0の動作対象OSにおいて、Microsoft .NET Framework Ver.4.6.2以降は既定で標準インストールされます。

(2) Windows向けレポート

- レポートの出力対象として、新たに以下のOSに対応しました。
 - Windows Server 2022
- レポート用テンプレートで以下の変更が行われました。
 - テンプレート名：Windows サーバー診断レポート用（旧名称：Windows サーバー診断V3レポート用）
 - 以下の監視項目で監視間隔（情報収集間隔）が変更されました。

監視項目	旧	新
プロセッサ監視 メモリ監視 仮想メモリ監視 ディスクアクセス監視 NIC関連の各監視項目	30分	10分
ディスク空き容量監視	30分	60分

- ディスクアクセス監視で監視するカウンターが変更されました。

旧	新
% Disk Time	Avg. Disk Queue Length

- レポート出力に直接関係しない、しきい値等の値が変更されました。

- 「101_サーバー診断レポート（Windows）」で以下の変更が行われました。
 - 「サーバー診断結果」の判定要素から「ハードディスクアクセス状況」が除外されました。
 - 「ネットワーク診断結果」において、「IN損失」「OUT損失」が診断対象から除外されました。
 - 診断結果の判定基準が変更されました。

診断項目名	Report オプション 7.0 SR4	Report オプション 8.0
CPU 負荷状況 メモリ使用状況	正常(余力有り)：平均25%未満 正常：平均50%未満 注意：平均75%未満 高負荷：平均75%以上	正常(余力有り)：平均50%未満 正常：平均75%未満 注意：平均95%未満 高負荷：平均95%以上
ハードディスク 使用率	正常(余力有り)：平均25%未満 正常：平均50%未満 注意：平均75%未満 高負荷：平均75%以上	正常(余力有り)：平均50%未満 正常：平均75%未満 注意：平均90%未満 高負荷：平均90%以上

- 「102_過去比較情報（Windows）」で以下の変更が行われました。
 - 「ハードディスクアクセス状況」が無くなり、新しく「ハードディスク処理待ち行列」が追加されました。
- 以上の変更に伴い、BOM 7.0環境で蓄積された情報からもレポートが出力できるよう、以下のレポートデザインが追加されました。
 - 101_サーバー診断レポート_BOM7用
 - 102_過去比較情報_BOM7用

(3) Linux向けレポート

- レポートの出力対象として、新たに以下のOSに対応しました。
 - Ubuntu 18.04 (LTS)
 - Ubuntu 20.04 (LTS)
 - Ubuntu 22.04 (LTS)

(4) VMware向けレポート

変更はありません。

2. Report オプション 8.0 での変更

(1) 不具合修正

- 約 8.4TB を超える容量のハードディスクやメモリーが装着された環境で、以下のレポートを出力するとエラーが発生する場合がある不具合に対応し、最大約 500 TBのストレージ容量をレポート出力の対象とすることができるように見直しました。【SRなし → SR1】
 - Windows サーバー診断レポート
 - Windows サーバー診断レポート BOM7用
 - Windows 過去比較情報
 - Windows 過去比較情報 BOM7用
 - Linux サーバー診断レポート
 - Linux 過去比較情報
 - 全インスタンス概要 (横)
 - 全インスタンス概要 (縦)

本修正は、Report オプション 8.0 向けの修正として弊社ウェブサイトでダウンロード公開していたものを、Report オプション 8.0 SR1に取り込んだものです。

(2) Windows向けレポート

- レポートの出力対象として、新たに以下のOSに対応しました。【SR1 → SR2】
 - Windows Server 2025

(3) Linux向けレポート

- レポートの出力対象として、新たに以下のOSに対応しました。【SR1 → SR2】
 - Ubuntu 24.04 (LTS)

(4) MHTML形式のレポートについて

- マイクロソフト社によるInternet Explorer 11のサポート終了に伴い、MHTML形式で出力したレポートについて、Internet Explorer 11での表示検証を終了しました。【SR1 → SR2】
MHTML形式のレポートは、Microsoft Edge の Internet Explorer モードでのみ表示確認しています。

注意・制限事項

1. 全般

- レポートをMHTML形式（MHTファイル）で出力して印字した場合、部分的にページが繰り上がる場合があります。
- レポート出力対象のデータ期間が極端に短い場合、各レポートの棒グラフが通常より太く出力される場合があります。これは製品特性上の仕様です。
- 出力対象のデータ期間が長い場合、各レポート上のX軸に出力される日付が省略（例：“12/1” → “12…”）して出力される場合があります。これは製品特性上の仕様です。
- MHTML形式およびEXCEL形式で出力した場合、フォントサイズの違いにより記載される領域を超えて文字が切れることがあります。
- ログ情報を出力する各レポートで、ログメッセージが長文（1ページの1/4程度）になった場合、文字間隔が広がる場合があります。これは製品特性上の仕様です。

2. Windows向けレポート

- 「008_プロセス詳細情報」の4グラフで、出力対象期間中に何らかの理由で監視データが存在しない場合、X軸上の日付はその期間が省略され不連続になります。詳細グラフ情報など他のレポートと合わせて確認してください。

3. Linux向けレポート

- Windows環境と異なり、以下の帳票は出力の対象外です。
 - 108_プロセス詳細情報
 - 109_ディスククォータ情報
 - 110_アプリケーションログ情報（テキストログを対象したLinuxテキストログ情報で代替）
 - 111_システムログ情報
 - 112_セキュリティログ情報
 - 113_セキュリティログ詳細
- 「505_ハードウェア情報」を出力する際は、対象の環境で以下の要件を満たす必要があります。
 - **Red Hat Enterprise Linux 7.x**
「OpenLMI (tog-pegasus, openlmi-tools/パッケージ)」、もしくは「lshw」および「perl-JSON」のパッケージを導入すること。
 - 【参考情報】2024年12月27日現在、レッドハット社の以下のサイトにOpenLMIのインストールに関する情報が掲載されています。
 - "22.2 OPENLMI のインストール"
https://docs.redhat.com/ja/documentation/red_hat_enterprise_linux/7/html/system_administrators_guide/sect-openlmi-install
 - **Red Hat Enterprise Linux 8.x、9.x**
「lshw」および「perl-JSON」のパッケージを導入すること。

- **Ubuntu**

「lshw」および「libjson-perl」のパッケージを導入すること。

4. VMware向けレポート

全般以外の注意・制限事項はありません。

各レポートデザインの注意・制限事項

1. 全インスタンス概要（VMware以外）

レポートデザイン	注意・制限事項
514_全インスタンス概要（横）	◦ VMwareインスタンスは対象外です。 ◦ Ping項目はWindowsインスタンスのみ有効で、Linuxインスタンスは対象外です。 ◦ レポートウィザードで指定したインスタンスに限らず、すべてのインスタンスが出力対象となります。 ◦ インスタンスを複数指定すると、指定したインスタンスの数が部数となり同じ帳票が出力されます。
514_全インスタンス概要（縦）	◦ VMwareインスタンスは対象外です。 ◦ Ping項目はWindowsインスタンスのみ有効で、Linuxインスタンスは対象外です。 ◦ レポートウィザードで指定したインスタンスに限らず、すべてのインスタンスが出力対象となります。 ◦ インスタンスを複数指定すると、指定したインスタンスの数が部数となり同じ帳票が出力されます。 ◦ 横レイアウトと異なり、OS名とバージョンを「OS情報」として出力します。

2. Windows向けレポート

レポートデザイン	注意・制限事項
101_サーバー診断レポート	◦ Ping監視で同じ宛先を複数指定すると、出力も複数の表 + グラフを繰り返します。 ◦ Ping監視において出力期間内ですべて応答時間がエラーで取得できない（時間のデータが無い）場合、評価コメントは出力されません。
103_詳細グラフ情報（横）	◦ グラフ横軸の期間は1週間単位で出力します。期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 ◦ グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力（Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。）この変化によりグラフ域に縦縞（棒グラフにおける隙間）が発生することがあります。
103_詳細グラフ情報（縦）	◦ グラフ横軸の期間は1週間単位で出力します。期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 ◦ グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力（Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。）この変化によりグラフ域に縦縞（棒グラフにおける隙間）が発生することがあります。
105_ハードウェア情報	2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
106_ソフトウェア情報	2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
108_プロセス詳細情報	◦ CPU利用率における特異点を指示す①などは非表示です。 ◦ 4つめの◆ネットワーク利用率のグラフはNIC単位に縦棒グラフで出力します。その他3つのグラフはプロセスを系列とした積上げ縦棒グラフで出力します。
109_ディスククォータ情報	◦ 前回比が求められない場合、「-」と出力します。 ◦ 前回比が増加の場合、値の前に「+」などの符号は出力はしません。

102_過去比較情報 104_システム基本情報 107_ハードウェア・ソフトウェア差分情報 110_アプリケーションログ情報 111_システムログ情報 112_セキュリティログ情報 113_セキュリティログ詳細 115_ArcserveUDP ログリスト 116_Hyper-V 仮想環境レポート	(記載事項はありません。)
--	---------------

3. Linux向けレポート

レポートデザイン	注意・制限事項
501_サーバー診断レポート	ネットワーク診断結果の表に平均値/最大値を出力します。診断は最大値のみが対象で、1Gb/sの帯域を基準にしています。
502_過去比較情報	- 前々回、前回、今回の3回分に相当する過去に監視したデータがない場合、右づめで出力します。また、前々回のデータがない場合、右欄から前回、今回と出力します。（前々回が空白で前回、今回にはなりません。） - 表に出力される各値は下2桁、各グラフ（%以外）のY軸は下4桁まで出力します。
503_詳細グラフ情報（横）	- グラフ横軸の期間は1週間単位で出力します。期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 - グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力（Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。）この変化によりグラフ域に縦縞（棒グラフにおける隙間）が発生することがあります。
503_詳細グラフ情報（縦）	- グラフ横軸の期間は1週間単位で出力します。期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 - グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力（Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。）この変化によりグラフ域に縦縞（棒グラフにおける隙間）が発生することがあります。
505_ハードウェア情報	2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
506_ソフトウェア情報	2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
504_システム基本情報 507_ハードウェア・ソフトウェア差分情報 510_Linuxテキストログ情報	（記載事項はありません。）

4. VMware向けレポート

レポートデザイン	注意・制限事項
601_サーバー診断レポート	◦ 同項目を複数監視している場合、その複数の項目と各値をすべて出力します。 ◦ 各項目をVMware社のガイドラインに記載された内容に沿って診断しますが、WindowsやLinuxで出力する総合的な診断はありません。 ◦ ストレージとして出力されるデータストアの量的な制限はありません。 ◦ ネットワークとして出力される物理および仮想の各NICは、最大3つまでの出力となります。
603_詳細グラフ情報（縦）	◦ グラフ横軸の期間は1週間単位で出力します。期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 ◦ グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力（Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。）この変化によりグラフ域に縦縞（棒グラフにおける隙間）が発生することがあります。
604_システム基本情報 615_VMwareログリスト	（記載事項はありません。）

レポートデザインフォルダー構成

レポートデザインファイルは以下の構成で格納されています。

- デザインファイル以外の、各レポートフォルダー毎に配置される共通設定ファイルについては記載していません。
- 「514_全インスタンス概要」は、Windows、Linuxで共通です。（VMwareは含みません）

[C:¥ProgramData¥SAY Technologies¥BOMW8¥BOM Forms Design¥ReportDesigner]

- ト 514_全インスタンス概要 (横).frx
- ト 514_全インスタンス概要 (縦).frx
- ト [Windows]
 - ト 101_サーバー診断レポート.frx
 - ト 101_サーバー診断レポート_BOM7用.frx
 - ト 102_過去比較情報.frx
 - ト 102_過去比較情報_BOM7用.frx
 - ト 103_詳細グラフ情報 (横).frx
 - ト 103_詳細グラフ情報 (縦).frx
 - ト 104_システム基本情報.frx
 - ト 105_ハードウェア情報.frx
 - ト 106_ソフトウェア情報.frx
 - ト 107_ハードウェア・ソフトウェア差分情報.frx
 - ト 108_プロセス詳細情報.frx
 - ト 109_ディスククォータ情報.frx
 - ト 110_アプリケーションログ情報.frx
 - ト 111_システムログ情報.frx
 - ト 112_セキュリティログ情報.frx
 - ト 113_セキュリティログ詳細.frx
 - ト 115_ArcserveUDPログリスト.frx
 - ト 116_Hyper-V仮想環境レポート.frx
- ト [Linux]
 - ト 501_サーバー診断レポート.frx
 - ト 502_過去比較情報.frx
 - ト 503_詳細グラフ情報 (横).frx
 - ト 503_詳細グラフ情報 (縦).frx
 - ト 504_システム基本情報.frx
 - ト 505_ハードウェア情報.frx
 - ト 506_ソフトウェア情報.frx
 - ト 507_ハードウェア・ソフトウェア差分情報.frx
 - ト 510_テキストログ情報.frx
- ト [VMware]
 - ト 601_サーバー診断レポート.frx
 - ト 603_詳細グラフ情報 (縦).frx
 - ト 604_システム基本情報.frx

出力ファイルサイズの目安

参考値として、弊社検証環境でWindows、VMware、Linuxの各レポートをすべて出力した際の総ページ数および、ファイルサイズを掲載します。

総ページ数：59ページ

形式	ファイルサイズ	1ページあたりのサイズ
PDF形式	約 14MB	約 250KB
EXCEL形式	約 600KB	約 10KB

PDF形式のファイルサイズ大きくなっているのは、以下の理由によるものです。

- グラフやアイコンなどのイメージを出力する解像度が異なること。
- 必要なフォントのない環境でも表示ができるよう、フォント情報を埋め込んでいること。

BOM Report オプション Ver.8.0 レポート出力仕様

2022年6月15日 初版

2025年1月31日 改訂

著者・発行者・発行

セイ・テクノロジーズ株式会社

バージョン 8.0.20.0

(C) 2022 SAY Technologies, Inc.